第２学年３組 国語科学習指導案
平成１３年２月７日（水）第５校時
(13:30〜13:45)
指導者 木村 敦子
場所 多目的ホール

1. 帯単元名
「ぼく・わたしのゆめ」

2. 帯単元について
(1) 児童の実態
本学級は、明るく個性的な児童が多いため、友達同士のおしゃべりも、みんなの前で話すことも多くの児童が好むである。しかし、みんなの前で話す時には、声が小さくなってしまう児童が少なくない。また、話す姿が聞きにくいになってしまう傾向がある。

話す活動では、1学期より、「口を大きく開けてはっきり」「太陽の声でゆっくり」とを目標に、みんなの前で話す機会を多様に設けるよう心掛けている。2学期より、朝の会のわくわくスピーチや国語の帯単元として、「楽しけらなかった」「自慢できること」「木の組み」を行ってきた。また、読書を用いて、全員で朗読したり、群読したり、一人で暗唱したりしている。

みんなの前で話す経験を重ねると、最初は話ができなかった児童も、今ではみんなと同じようにはっきりメモを見ずに話せるようになってきた。とても緊張していた児童も、今ではスピーチの順番が回ってくるのを楽しみにしているようである。声の大きさも意識できるようになってきた。

聞く活動は、「目と耳で聞きましょう」を目標に、耳で聞くだけでなく、話す人を見て、思いやりを持って聞くことを大切にしている。そして、友達のスピーチを聞いた後に質問したり、感想を発表したりしている。質問や感想が言えることは、友達の話を最後までしっかり聴いているからできるので、とてもよいことであると褒め、励ますることで、意欲的に聞き、思ったことを発表できる児童が増えてきた。最近では、話し方だけでなく、話の内容に関する感想も少しずつ多くなってきている。

(2) 帯単元設定にあたっての意図
2年生は、みんなの前で話すことは好きだが、「口をあまり動かさない、みんなの前で話すことができない」という児童が多かった。また、話したいことをどのように話したらよいのか分からなかった、何を言いたいのかが分からなかったりすることが多かった。

そこで2学期には、まず、「国語の「こんなことがある yuk」の学習で、話したいことが相手によく分かれるように、順序に気を付けて話すことを心掛け、グループごとにスピーチに取り組んだ。次に、「ぼく・わたしのじままでできることはなあ」とのスピーチに取り組んだ。ここでは、はっきりメモを使って、話す内容を整理して、友達によく分かるように話すよう心掛けた。ところが、メモを持つと、メモを読んでしまい、相手によく伝わらないため、メモは教師に預け、話す内容を忘れてしまった場合には、教師がメモを見て支援するから心配しないで話すようにと指導したところ、ほとんどの児童は、みんなの前で最後まで話すことができた。次に取り組んだ「ぼく・わたしの好きな本」のスピーチでは、はっきりメモの他に、ふり返りメモを交え、聞き方の約束ができたかどうか、聞いて思ったことを発表できたかどうかを自己評価した。それにより、前回のスピーチの時には、自分から質問をしたり、感想が発表できなかった児童が発表するようになってきた。

しかし、今までのスピーチでは、質問がやや形式化し、話の内容に関する感想ではなく、話し方に関する感想が多かった。そこで、本単元では、児童が興味・関心をもつような材料で、聞き手が質問をしやすく、共感できるものを選んだ。話し手は自分のゆめを生き生きと話し、どうしてそう思うのか、そのためにどんなことをしているのかを話す。できるだけ、児童の話したように、思いを十分に話せるように自由な発想ではっきりメモをつなかった。ふり返りメモは、いずれかキーワードメモにつなげるもので、聞く心構えや、態度を身に付けるために有効と考えられるので、今回も使っていくことにした。帶単元として短時間で学習することで、聞き手に分かるように話す力、最後まで聞く力に身に付けさせたい。児童が、話したい、聞きたいと感じる「ぼく・わたしのゆめ」のスピーチは、2年生の「話すこと・聞くこと」の学習の集大成となると考える。
3. 備箇元の目標
話し手は、聞き手に分かりやすく生き生きと自分のぬめを話し、聞き手は、楽しくて最後まで聞き、簡単なふり返りメモを書くことができる。

4. 本時の学習指導　(7／12)
（1）本時の展開

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習活動</th>
<th>学習内容</th>
<th>評価と支援の工夫（○）及び指導上の留意点（○）</th>
<th>分</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>1. 「ぞうのかくれんぼ」をみんなで読み合う。</td>
<td>○はっきりした発音</td>
<td>○楽しく話したり聞いたりできる雰囲気作りをする。</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td>2. スピーチを行う。</td>
<td>○相手に伝える話し方・メモ見ない話し方</td>
<td>○どうしてそのぬめをもっているのか、それに努力していることなどを発表させる。</td>
<td>1</td>
</tr>
<tr>
<td>3. スピーチを聞いた後、質問をしたり、感想を発表したりする</td>
<td>○目と耳と心を使った聞き方・分からないことの尋ね方</td>
<td>○内容についての感想が話せるようあらかじめ、よい感想のモデルとして作る。</td>
<td>4</td>
</tr>
<tr>
<td>話し手は、それに答える。</td>
<td>○思っていたことを話し手に伝える話し方・話題に沿った話し方</td>
<td>○内容についての感想がでなかったら、前回までにない感想を発表していた児童の感想を想起させる。</td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>4. 話し手は、終わりの言葉を言い、聞き手は拍手で気持ちを伝える。</td>
<td></td>
<td>○話をしてよかった、話が聞けてよかった、と思うような声掛けをする。</td>
<td>5</td>
</tr>
<tr>
<td>5. 学習活動２～４もう一回くり返し</td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>6. ふり返りメモを書く</td>
<td>○自己評価・聞く態度の評価・一貫感想</td>
<td>○内容を見誤らないように、感想につけ合う。</td>
<td>2</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
<td></td>
</tr>
<tr>
<td>7. 先生の音楽</td>
<td></td>
<td></td>
<td>1</td>
</tr>
</tbody>
</table>

備考 在籍児童数　男子１７名　女子１６名　計３３名

（2）教科書教材との関わり

<table>
<thead>
<tr>
<th>帯単元「ぼく・わたしのぬめ」</th>
<th>15分×12</th>
</tr>
</thead>
<tbody>
<tr>
<td>家の人に知らせるつもりで「できるようになったこと」</td>
<td>30分×12　45分×6</td>
</tr>
</tbody>
</table>
3. 帯単元の目標
話し手は、新聞記事の内容をもとに自分の考えを組み立てメモを使って、友達に分かりやすく読み道を立てて伝えることができる。聞き手は話し手の意見を正しく聞き取って、自分の考えを深めることができる。

4. 本時の学習指導（15/15）
（1）本時の展開

<table>
<thead>
<tr>
<th>学習活動</th>
<th>学習内容</th>
<th>評価と支援の工夫（◎）および指導上の留意点（○）</th>
<th>分</th>
</tr>
</thead>
</table>
| 1. 音読集を読み合う | ○聞きとりやすい発声・発音、声の大きさ、速さ、口の開け方 | ○聞き取りやすい、はっきりとした発声・発音を意識させる。
○人ひとりを観察しながら、調子に言説していく。
○発表者の児童に続いて他の児童が読むようにすることによって、スピーチをする児童の緊張をはぐすようにする。 | 1 |
| 2. スピーチをする。 | ○聞き手を意識した話し方、大切なところを落とさない聞き方、自分の意見を持ちながらの聞き方 | ○組み立てメモに繰りすぎず、聞き手に話しかけるように話させる。
○聞き手はスピーチ聞きながら自分の考えを持つようにする。
○スピーチの題材となる新聞記事は、実物投影機でテレビに映す。
○聞き手は話し手の顔を見てスピーチを聞き、話しやすい雰囲気をつくるようにさせる。 | 3 |
| 3. 意見や感想を述べる。 | ○スピーチの内容を受けた自分の考えの述べ方 | ○特に話し手の考えについて質問をしたり、意見を言ったとするようにする。
◎話し手の考えに対して自分の考えをしっかり述べられている児童をその場でほめる。 | 5 |
| 4. 話し手は終わりの言葉を言い、聞き手は拍手をする。 |  |  |  |
| 5. 感想カード書き、発表者に渡す。 | ○評価の仕方 | ○友達のスピーチでよかったところを中心に書きさせるようにさせる。
○スピーチをした友達のよいところを評価するために声かけをする。 | 2 |
| 6. 学習のまとめをする。 | (1) 教師の話を聞く。
(2) 新聞記者の話を聞く。 | ○スピーチの仕方や内容について評価し、次のスピーチへの意欲付けをする。
◎本時は特に新聞記者の方の講評を聞く。
○次回からはぐくむスピーチで行うことを知らせて終わる。 | 4 |

(2) 教科書教科との関わり

| 帯単元 | 「新聞記事を読んで」 15×15
|「六年生を送る会」 | 事例をもとに「言葉と気持ち」 30×5
| | 30×10 |

備考 在籍児童数 男子15名 女子16名 計31名